

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100392		
法人名	有限会社クラウド		
事業所名	グループホーム幸樹		
所在地	秋田市泉南一丁目4番20号		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中に位置し、向かいには公園があり、とても恵まれた環境にあります。気候が安定しているときは、毎日のように散歩を楽しんでいます。また敷地内に畑があり、作物の栽培や収穫を楽しんだり、草取りをしたりしています。地域の方々も協力的で町内行事に誘って下さったり、離苑した利用者に声をかけて下さったり、地域の一員として温かく見守られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に町内会が参加してくれるようになって協力が得られることが多くなり、協力を得ながら地域に認知される事業所を目指しています。ホームを災害時の避難場所として提供を申し出る等、災害対策についても話し合わせ、相互に協力し合う関係を構築されています。利用者の生活歴やそれぞれの個性を理解して対応され、その人の思いに沿った生活ができる環境づくりに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で作った理念を玄関や事務所に掲げ、誰にでも分かるようにして共有しています。またミーティング時には再確認し、意識を高めケアを実践しています。	ミーティングの際に理念を再確認し、理念に基づいて日常の支援を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事参加や地域を語る会、ふれあいサロン等に参加し、地域住民の一員として交流できています。	町内会に加入してお祭りの手伝いや清掃活動に参加し、「地域を語る会」では当ホームを取り上げていただく等、協力を得ながら地域の一員として交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で認知症の支援状況を報告したり、利用者の参加にて認知症の理解を深めていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催することで、参加者との情報交換が十分出来ており、意見を反映するよう努めています。	利用者の日常や地域との交流等、活動内容を報告して意見交換されています。参加者からの意見が活かせるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターから運営推進会議への出席の協力をいただき、情報や助言を頂いています。	「介護支援ボランティア」運用についての相談等、必要に応じて連絡し、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学ぶ機会を設け、普段のケアに取り組んでいます。また、玄関は施錠せず、利用者の心身の状態に寄り添うことで安心して過ごせるようなケアに取り組んでいます。	「身体拘束ゼロへの手引き」をマニュアルとして使用し、勉強会で知識を深めています。身体拘束をしないケアを話し合っ共有し、日々のケアを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について学ぶ機会を設けて取り組んでいます。自尊心に配慮した対応を心がけケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会設け、必要ときには活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や前段階より、ご本人やご家族が不安を抱かれないよう、説明を行い理解・納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日常の関わりで、ご家族とは運営推進会議や面会時に面談するなどして意見要望を伺い、反映しています。	利用者、家族から出た意見等を申し送りで伝え、カンファレンスで検討して反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンスだけではなく、日々の関わりを通して、職員の意見や提案を聞くことが出来る環境にあります。	日常の話し合いの中で備品の購入や改善点等を代表に伝え、反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思いや状況を管理者が代表者に伝え、各自が働きやすい職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加の機会を確保し、参加後は研修報告や伝達講習を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の会員であり、相互訪問や研修の機会があります。参加することで情報交換ができており、サービスの質の向上に繋がっていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、利用者から困りごとや不安点・要望等を聞き、その基づく支援方針を決めています。入居後も安心して生活していただく事ができるよう関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望には耳を傾け、なるべく沿うように努めています。また、通院等で家族が対応できないときは手伝う意志がある事を伝え、安心していただいています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに手伝って欲しい事を伝える事が出来ており、生活を共にする者同士の関係が築けています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で近況をお伝えしています。また面会時にも話やすい雰囲気を作るよう心がけ、ご家族からアドバイスをいただいたりもしています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等が気兼ねなく来ていただけるようにしています。また一時帰宅された時には、ご近所の方と交流されています。	利用者同士が知り合いで良い関係にあるという方もおられます。利用者のこれまでの生活状況を理解し、大切にしている場所や人との関係が途切れないように可能な限り関わり合うことができるよう支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を工夫し、一緒に参加できるレクリエーションや手伝いを通して関係を深められるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族から近況の報告を頂く事があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりで信頼関係を深める事で一人ひとりの思いを把握できるように努めています。	家族や友人から情報を得、日々の関わりの中から意向の把握に努めています。合同ミーティングで情報を共有し、ユニット間の連携を図っています。	職員それぞれが得た情報を記録し、介護計画やモニタリングに反映しやすくなるように工夫されることを期待します。
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしや経過等の情報を提供してもらい介護計画に反映しています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から一人ひとりの状態を把握し、変化を見逃さないように努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との日々の関わりを通して気づいたことを職員・関係者間で情報共有し、現状に即した介護計画を作成しています。	職員全員でモニタリングを行い、利用者の思いを大切にされた介護計画が作成され、家族にも確認されています。介護計画は3ヶ月毎に見直しされています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践内容を個別に記録し、職員間で情報共有して、ケアの実践や計画の見直しに活かされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が行きたい場所や興味あることの把握に努め、行きたい場所には一緒に出かけたりして楽しみのある暮らしが出来るよう支援しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に沿って、これまでのかかりつけ医受診や協力医往診により適切な医療を受けられるよう支援しています。また、協力医とはいつでも連絡がとれる体制が整っています。	入居時の状況によっては協力医に変更していただくこともありますが、それぞれのかかりつけ医で受診されています。医科、歯科の訪問診療が行われており、薬局とも連携されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や変化の気づきを看護師に報告相談して指示を仰いでいます。利用者が適切な看護を受けられるよう支援しています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、医療機関や家族と連携をとり、情報交換を行っています。入院中は定期的に見舞いをして状況把握に努めています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明をしているが、重度化した場合に再度説明をしている。方針を理解いただき、医師から状況説明をもらい、家族の意向に沿った支援をしています。	これまで多くの看取りを経験されており、家族の意向に沿って支援できるよう体制を整えています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の普段の状態を把握し、事故を未然に防ぐよう努めています。初期対応や応急処置については定期的に看護師より説明を受けています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に自主訓練を行い年1回は消防署立会いのもと夜間想定訓練を行っています。町内会でも幸樹を巻き込んだ避難方法を検討しており、体制が整っています。	運営推進会議でも対策が話し合われ、町内会と相互の協力体制が検討されています。	安全、迅速に避難できるよう雪寄せをして、避難経路を確保されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握しその人らしく生活できるように支援しています。また誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけにも配慮しています。	利用者の性格や生活歴に配慮し、言葉遣いやコミュニケーションに気を配りながら対応されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者の気持ちを引き出したり、思いを表したり出来るように、働きかけています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れにとらわれず、一人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、本人の希望に沿った支援をしています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服を一緒に選んだり、本人が喜ぶような身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力や好みを把握し、料理の下ごしらえ・盛り付け・食器洗いや食器拭き等のお手伝いをしてもらっています。また、食材の買出しにも一緒に出かけたりもします。	できることを一緒に行い、利用者の力を引き出して食事を楽しんでいただけるように支援されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた家庭的な献立を作成し、食事形態についても工夫をしています。水分量・食事摂取量の把握に努めています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。本人の能力に合わせて必要に応じて介助を行い、清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した声掛けや誘導を行っています。	排泄表で状況を管理して失敗の軽減に繋げ、さりげなく誘導して自立に向けて支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫したり、乳製品の提供や水分補給を支援しています。また適度な運動を取り入れスムーズな排便が出来るよう予防に取り組んでいます。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い体調をみて、無理なく入浴していただいています。また、つなぎ温泉の温泉浴も喜んでもらっています。	朝湯や一番風呂を好む方等、利用者の希望を尊重して対応されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムに合わせて休みたいときに休んでいただいています。また安眠できるように室温や湿度にも配慮しています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の既往歴や病状を把握し、処方薬の効能の理解に努めています。また処方薬の変更時や症状の変化について看護師より報告を受け、周知しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習慣や趣味を取り入れたり、天気の良い日には散歩や花壇の花を見たりして気分転換をしています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見等の季節を感じられる外出の機会を設けています。また、散歩や買い物、町内行事や家族との外出など希望に沿った外出が出来るように支援しています。	散歩や個人的な買い物、町内の催事等、希望に沿って対応されており、その日の利用者の状態を見て誘ったり、家族や町内会の協力を得ながら外出の機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は所持していないが、家族と相談の上、少額所持している方もいます。買い物の際、所持金から支払うこともあります。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話は本人に繋いでいます。手紙や荷物も本人に渡しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく生活できる空間を意識しています。席やソファの配置を工夫したり、季節感のある飾りつけや作品を掲示するなどして楽しんでもらっています。また、清潔や温湿度管理にも気を配っています。	利用者の関係性を考慮して座席づくりに工夫しています。台所も開放的で、会話を楽しみながら行えるよう適度な位置に調理台が設置されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にもリラックスできるようソファを置いたり、気の合った利用者同士がコミュニケーションを取り易いよう、工夫しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた使い慣れた家具や仏壇等を持って来て頂き、自宅で生活していたときのように居心地良く過ごしてもらっています。	家族の写真や大切なもの、絨毯や椅子を持参してそれぞれの部屋が個性があり、安心して過ごせる環境をつくっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を行い、安全に移動できるように手すりを設置しています。また、予測介護をすることで、安全に自立した生活が続けられるよう努めています。		